

平成29年度第1回政策会議

日時 平成29年6月20日（火）14:00～14:30

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 辻教育長
種田企画部長 小野総務部長 入江財務部長

戸井地区小・中学校および南茅部地区中学校の再編に伴う 施設整備について

◎対応 小林生涯学習部長 木村学校教育部長 佐藤生涯学習部次長
阿部管理課長 佐賀井施設課長 柴田学校再編・計画担当課長

◆ 議題の趣旨 ◆

戸井地区小・中学校および南茅部地区中学校の再編に伴う施設整備について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

施設の規模については再度検討することとされましたが、本件の内容については了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■小林生涯学習部長

戸井地区の小・中学校再編に伴う施設整備についてであるが、平成28年12月に学校教育審議会より、「戸井地区の小・中学校の児童生徒数減少のため、統合することが必要であり、統合校の位置は小学校2校、中学校2校をそれぞれ1校に統合し、現潮光中学校の位置とすることが望ましい」との答申を受けた。現潮光中学校を除く小・中学校については、老朽化しているうえ、耐震性が不足していることから、現潮光中学校の敷地内に小学校校舎を増築することとしたいと考えている。統合後の学校の規模については、小学校は5学級、中学校は3学級となる見込みである。統合校の校舎等の整備についてであるが、現潮光中学校敷地に小学校校舎の増築および現潮光中学校校舎の改修を行い、整備内容としては、小学校校舎増築および中学校校舎の改修や外構整備等である。平成31年度に実施設計等、平成32年度に校舎・外構整備を行い、平成33年4月に開校予定であるが、外構整備の一部が平成33年度まで延びる可能性がある。

南茅部地区の中学校再編に伴う施設整備についてであるが、平成28年7月に学校教育審議会より、「尾札部中学校と臼尻中学校の生徒数減少のため、統合することが必要であり、統合校の位置は両校の中間地点付近が望ましい」との答申を受けた。両校の現校舎については、老朽化しているうえ、耐震性が不足していることから、両中学校を統合することとしたうえで、統合校を新築することとしたいと考えている。統合後の学校の規模については、通常の学級が3学級となる見込みである。統合校の校舎等の整備についてであるが、両校の中間地点である南茅部運動広場に

統合校を新築し、整備内容としては、統合時の学級数は通常の学級3学級と特別支援学級2学級の合計5学級と想定している。なお、校舎および屋内運動場の配置場所、階数等については今後の基本設計において決定することとしている。平成31年度に基本設計や地質調査等、平成32年度に実施設計や確認申請等、平成33年度から平成34年度にかけて校舎と屋内運動場の新築を行い、平成35年4月に開校したのち、グラウンドと外構の整備を行う。

■中林副市長

面積を下げる検討が必要なのではないか。

■小林生涯学習部長

廊下を狭くするなど必要最小限にコンパクトにまとめた形としている。

■川越企業局長

南茅部地区中学校の関係であるが、平成35年に生徒数が77人と想定しているが、その後はどう推移すると想定しているのか。

■小林生涯学習部長

現在の住民基本台帳から計算すると、平成40年に72人、平成41年に67人になる。

■川越企業局長

今後、仮に生徒が大幅に減った場合に、他の古くなった施設が入ることができるような仕様として考えたほうがよいのではないか。

■工藤市長

普通教室については、40人用の広さがなくても十分なのではないか。

■種田企画部長

戸井の小学校についても、40人用の広さとなるのか。

■佐賀井施設課長

市内の学校の教室よりは若干小さくなる。

■工藤市長

児童・生徒数に合わせた教室の広さにする工夫が必要なのではないか。

■中林副市長

教室の広さを小さくすることにより、新築面積を下げることはできるのではないか。

■小林生涯学習部長

施設規模は今後の検討事項とするが、このような方向で進めるということについて、地域への説明に入ることとしたい。

■種田企画部長

施設の規模をなるべく縮小する方向で検討することとするが、本件については了承とする。